

# アジアの友

The Asia-no Tomo

No. 543

学修歴証明書デジタル化の世界的動向と日本の課題  
—日本における実証実験の概要—

<新施設ご紹介> 外国人在留支援センター（FRESC/フレスク）

日本語学校が行う地域国際交流と「やさしい日本語」の普及



# アジアの友

2020年7-9月号 第543号

## 目次

	大学行政管理学会 2020年度 第1回関東地区研究会より
2	学修歴証明書デジタル化の世界的動向と日本の課題 —日本における実証実験の概要—
	新施設ご紹介
26	外国人在留支援センター (FRESC / フレスク)
	レポート
30	日本語学校が行う地域国際交流と「やさしい日本語」の普及 学校法人 ABK 学館 ABK 学館日本語学校 星川 由佳
	私の意見私の体験
36	アセリ・ベルダリエワ ～キルギス
	コラム 泰日工業大学奮闘記
40	③7 「オンラインによるタイ日交流」 水谷光一
	知友会通信 & MEMBERS
42	奨学金、合同会社説明会情報他

<表紙> キルギスの首都ビシュケクの風景

# 学修歴証明書デジタル化の世界的動向と日本の課題

## —日本における実証実験の概要—

大学行政管理学会 2020 年度 第 1 回関東地区研究会より

さる8月8日(土)に第一回大学行政管理学会関東地区研究会が標記タイトルでWebセミナーにより開催された。政府もデジタル化政策に力を入れる中、セミナー当日は非会員の参加も多くあり、大学関係者の高い関心を呼んだ。本誌では、当日の5名の発表者の講演内容を紹介する。大学行政管理学会は日本全国の大学の横断的な職員相互の啓発と研鑽を深めるための専門組織であり、1300名あまりの会員がいる。

### 研究会の目的と意義

赤松 茂利 大学行政管理学会理事、早稲田大学

まず電子証明書について、大学職員が携わる意義、職員目線での問題点、課題の整理について紹介します。

電子証明書と聞いて、気になる点というのは電子証明書の真正性に対する信頼にあると思います。電子化に際しての最も根源的なニーズであると思いますがここを理解していただくということ、次に今の世界の趨勢と日本の課題を知っていただくということの二つが本日の重要なところだと思っています。これを踏まえた上で、皆様の日々の業務にフォーカスをあてて本日の課題を一緒に考えたいと思います。

具体的に申し上げますと、電子証明書を受領する立場の職員から考えると、今世界のどのような国がどういったプラットフォームを使っているのかということを知ることが、各大学の電子証明書の受領の促

進につながってくると感じています。

現在、日本の多くの大学は出願書類を受け取る際、紙で証明書の提出を求めています。紙の原本主義というのがまだ根強く残っていますので、そこからの脱却を図っていく。そうすることで大学業務の効率化、簡素化につながっていくということと、何よりもステークホルダーへの共感を生むことになります。今すぐに大学の制度を変えることは難しいかもしれませんが、一步踏み込んで、相手の状況を理解していく、学んでいく姿勢というのが大学職員に求められているのではなでしょうか。

一方でこの電子証明書を発行する立場、発行の検討をしていく職員の立場から考えますと、電子化は卒業生、在学生の移動性、利便性の向上につながっていきます。そしてポスト・コロナを見据えた大学行政サー

ビスのあり方を抜本的に変えるポテンシャルを持っているのが、この電子証明書だということは、直感的にもご理解いただいていることかと思えます。

そして、この電子化を進めるにあたって最も大切なことのひとつが導入手法の検討をしていくということです。ここでは、グローバルスタンダードは何か、どういったプラットフォームが利用されているのか、法令遵守は守られているのか等々あるわけですが、肝心なのは証明書の受け手が真正性を確信し、それを保証するシステムが必要だということです。逆に言うと、いま日本の多くの大学は、この電子証明書をまだよく知ら

ない。あるいは真性性に対する信頼をまだ得られていないので、念のため紙を出してくださいと、という運用をしているわけです。ですから我々が発行者に回った場合は、世界的に信頼を得ているシステムを使っていくという必要性があり妥当性がある、と考えております。

こうしたことが本日の研究会の全容であると思っています。冒頭で申し上げたこの全体と、皆様にかかわる部分の相関関係を通じて電子証明をより深く理解していただきたいと思えますし、それが皆様の業務の意義ですとか概念、その再定義につながっていくのではないかと考えています。